



# 平成29年度肝炎対策 予算案の概要

# 平成29年度肝炎対策予算案の概要

平成29年度予算案 153億円（平成28年度予算額 186億円）  
（インターフェロンフリー予算を除き 136億円（平成28年度予算 134億円））

## 基本的な考え方

「肝炎対策基本指針」の改定を踏まえ、肝硬変・肝がんへの移行者を減らすことを目標として、肝炎医療、肝炎ウイルス検査、普及啓発、研究などの「肝炎総合対策」を推進する。

### 1. 肝炎治療促進のための環境整備

70億円（104億円）  
（インターフェロンフリー減影響△35億円含む）

#### ○ウイルス性肝炎に係る医療の推進

- ・ B型肝炎・C型肝炎のインターフェロン治療、インターフェロンフリー治療及び核酸アナログ製剤治療に係る患者の自己負担を軽減し、適切な医療の確保と受療の促進を図る。

### 2. 肝炎ウイルス検査等の促進

39億円（38億円）

#### 改○肝炎患者の重症化予防の推進

- ・ 利便性に配慮した肝炎ウイルス検査体制を確保し受検を促進する。また、市町村での健康増進事業において、41歳以上での個別勧奨を拡充する。
- ・ 肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨を行うとともに、定期検査費用の助成措置の拡充により、肝炎患者を早期治療に結びつけ、重症化の予防を図る。

#### 拡 充 内 容

自己負担限度額の軽減 慢性肝炎:3千円 ⇒ 2千円、  
肝硬変・肝がん 6千円 ⇒ 3千円

#### 新○職域検査への取組の促進

- ・ 職域での肝炎ウイルス検査促進のため、保険者等を通じた啓発を行う。

### 3. 肝疾患地域連携体制の強化

6億円（6億円）

#### 改 ○肝疾患診療地域連携体制の強化

- ・ 都道府県等への助成により、都道府県と肝疾患診療連携拠点病院を中心とした関係機関の連携を強化するとともに、医療従事者や肝炎医療コーディネーター等の人材育成、肝炎患者等への治療や生活、就労の相談支援等を行い、地域における肝疾患地域連携体制の強化を図る。
- ・ 都道府県等が行う先進的事例についてインセンティブ評価を導入し、取組の加速を図る。

#### 改 ○肝炎情報センターによる支援機能の戦略的強化

- ・ 国立国際医療センター肝炎情報センターによる肝疾患診療連携拠点病院への支援機能を強化して、地域の肝疾患医療や患者等の支援の向上を図る。
- ・ 拠点病院が行う先進的事例についてインセンティブ評価を導入し、取組の加速を図る。

### 4. 国民に対する正しい知識の普及

1.6億円（1.6億円）

#### ○肝炎総合対策推進国民運動（知って、肝炎プロジェクト）による普及啓発の推進

- ・ 都道府県等や民間企業と連携した多種多様な媒体を活用した効果的な情報発信を通じ肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性などをわかりやすく伝える啓発事業を展開する。

### 5. 研究の推進

37億円（37億円）

- ・ 今年度中間見直しが行われた「肝炎研究10カ年戦略」を踏まえ、B型肝炎の画期的な新規治療薬の開発や肝硬変の病態解明と新規治療法の開発等を目指した実用化研究と肝炎対策を総合的に推進するための基盤となる行政的な課題を解決するための政策研究を推進する。

（参考）B型肝炎訴訟の給付金などの支給

572億円（572億円）

# 定期検査費用助成の拡充

H28:7.9億円 ⇒ H29案:10.8億円


## 概要

慢性肝炎、肝硬変、肝がん患者に対し、定期的な介入を通じて早期治療に結びつけ、重症化予防を図るため、定期検査費用の助成を行う。

## 29年度予算案

- 血液検査、超音波検査、CT・MRIを用いた定期検査に係る費用助成に関し、世帯の市町村民税課税年額235千円未満の者の自己負担額について、**慢性肝炎患者は1回2千円、肝硬変・肝がん患者は1回3千円**まで軽減する。

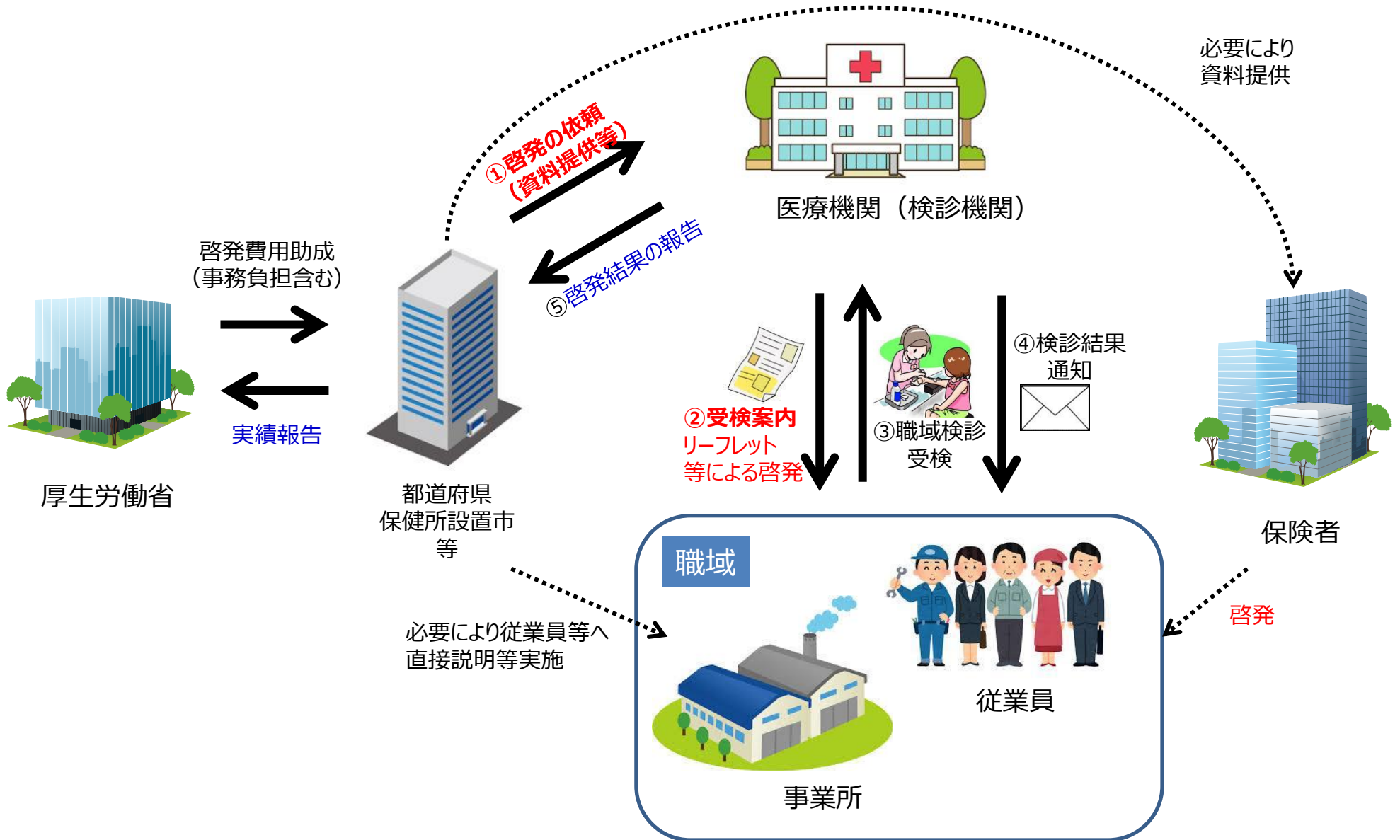
## 内容の変遷

定期検査費用助成の拡充			
	平成28年度		平成29年度予算案(下線部が改正内容)
助成回数	年2回		年2回
助成対象	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民税非課税世帯⇒無料</li><li>・世帯の市町村民税課税年額が235,000円未満の者<ul style="list-style-type: none"><li>・慢性肝炎:1回につき<b>3千円</b>自己負担</li><li>・肝硬変・肝がん:1回につき<b>6千円</b>自己負担</li></ul></li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・住民税非課税世帯⇒無料</li><li>・世帯の市町村民税課税年額が235,000円未満の者<ul style="list-style-type: none"><li>・慢性肝炎:1回につき<b>2千円</b>自己負担</li><li>・肝硬変・肝がん:1回につき<b>3千円</b>自己負担</li></ul></li></ul>

定期的なスクリーニングの促進（病気の進行の早期発見、早期の治療介入）

# 職域検査促進事業 その1 (検診機関(健保組合等)との連携)

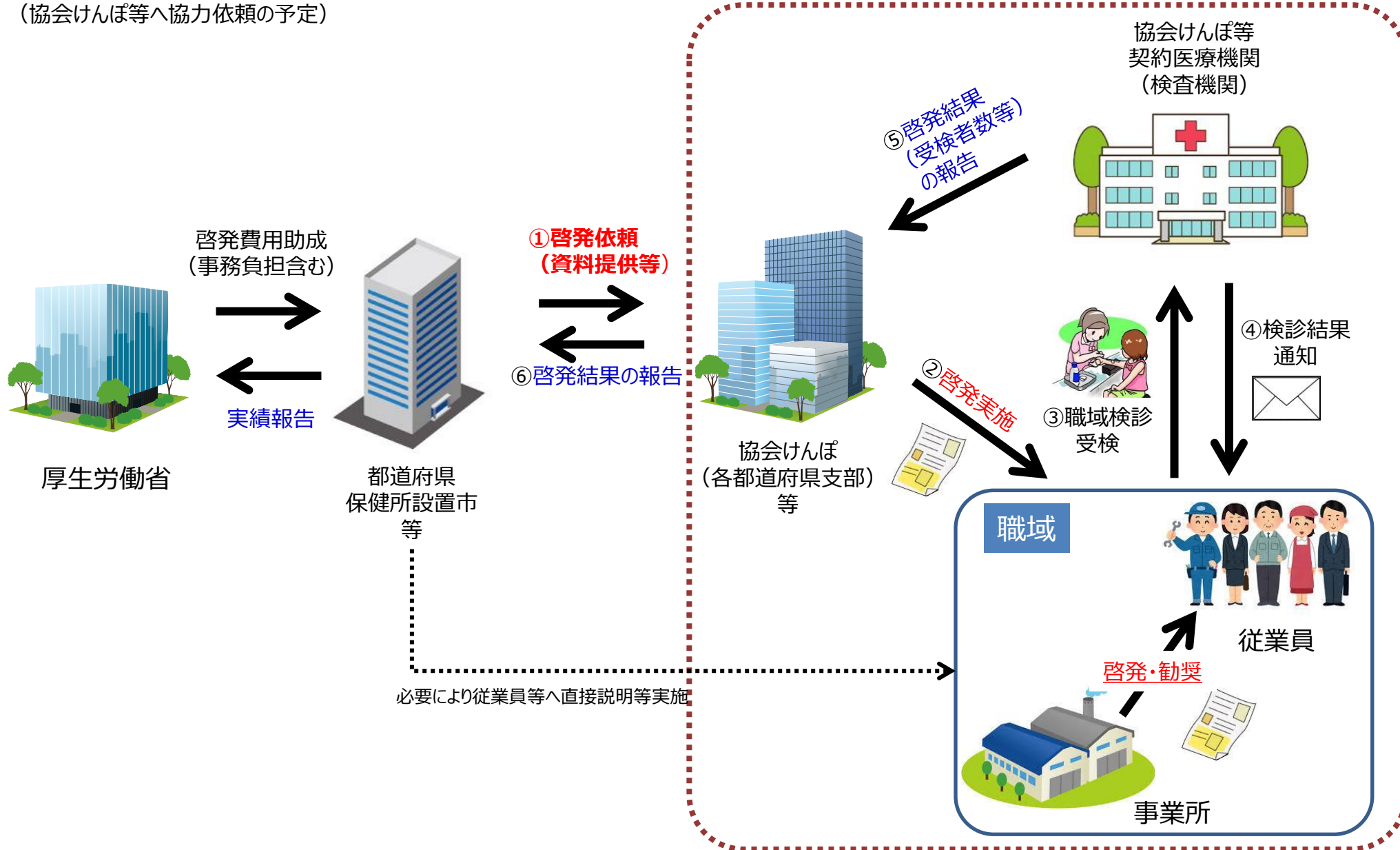
職域検診における肝炎ウイルス検査の実施を促すため、職域への啓発を実施する（実施の詳細は関係者間で今後調整）。



# 職域検査促進事業 その2 (協会けんぽ等との連携)

職域検診における肝炎ウイルス検査の実施を促すため、職域への啓発を実施する（実施の詳細は関係者間で今後調整）。

(協会けんぽ等へ協力依頼の予定)





# 肝炎患者等支援対策事業の29年度新規予算案(概要)

## ○インセンティブ評価事業の設定による肝炎対策の推進

### (1) 趣旨

肝炎対策基本指針においては、都道府県が肝炎対策の目標、指標を設定するよう促した上、検査の促進、陽性者への受診勧奨など様々な課題への対応を掲げてたところである。

また、28年度以降、肝炎患者等支援対策事業等を見直し、都道府県等が作成する事業実施計画を受けて、事業を推進するとともに、肝炎情報センターにより評価検証を行い、適切な助言を行うこととしたところである。

この際、肝炎対策で課題となっている肝炎対策基本指針での重要事項の取組に対して、事業の評価内容が良く、かつ全国的な展開が必要と考えられる事業について、インセンティブ評価事業として、特に支援を図るものとする。(肝炎情報センター戦略的強化事業委託費における研修等事業でも同様に実施する)

### (2) 事業概要

前年度の事業検証結果等を踏まえて、以下の種別において、他県での参考となる先進性、効果が相当程度見込める事業に対し、これらの事業を推進するため、要望額を優先採択して補助を行う。なおインセンティブ評価事業終了後、事業実施による効果測定結果、及び事業結果を踏まえた事業スキームの提案書を提出してもらう。

#### ○インセンティブ評価事業の候補案

##### ア 職域(団体)等に対する啓発、支援

(保険者、事業者等への説明による理解浸透、検査等の実施への誘導、等)

##### イ 肝炎医療コーディネーターの有効活用

(コーディネーターを使った検査勧奨、陽性者の受診への誘導、等)

##### ウ 医療機関(専門医療機関、かかりつけ医)、市町村等行政機関との連携(※)

(医療連携のシステム化、検査受検・陽性者受診に向けた市町村との連携、等)

##### エ 患者支援への取組

(就労しながら治療するための環境整備(患者本人、職場等への適切な対応、等))

# 「知って、肝炎プロジェクト」について

## 大使・スペシャルサポーター



特別参与 杉 良太郎  
特別大使 伍代 夏子  
広報大使 徳光 和夫  
肝炎対策大使 小室 哲哉



スペシャルサポーター  
石田 純一 SOLIDEMO  
岩本 輝雄 高橋 みなみ  
w-inds. 田辺 靖雄  
上原 多香子 豊田 陽平  
AKB48メンバー 夏川 りみ  
EXILEメンバー 仁志 敏久  
小橋 建太 平松 政次  
コロッケ 堀内 孝雄  
島谷 ひとみ 的場 浩司  
清水 宏保 山川 豊  
瀬川 瑛子 山本 譲二

※五十音順（敬称略） 平成28年7月末時点



## 啓発活動の紹介

### ■ 広報動画

厚生労働省 YOUTUBEオフィシャルサイト



### ■ プロジェクトテーマソング 「えがおのあした」

知って、肝炎プロジェクトHPで公開中



■ **大使・サポーターによる首長訪問での啓発活動を実施中**  
⇒ **ご希望の自治体は「知って、肝炎プロジェクト」事務局へ**  
**ご連絡願います。**  
[\(http://www.kanen.org/\)](http://www.kanen.org/)



H28.8.23 富山県知事  
訪問(上原多香子氏)



H28.6.19 佐賀県武雄市長  
訪問(小橋建太氏)



# 肝炎研究10カ年戦略

肝炎治療戦略会議取りまとめ  
(戦略期間：平成24年度～33年度)

平成28年度  
中間見直し

## ◆肝炎研究の戦略

H20年度～

肝炎研究  
7カ年戦略

【目的】 B型肝炎、C型肝炎の治療成績の向上を目指し、肝炎に関する臨床・基礎・疫学研究等を推進する。

H24年度～

肝炎研究  
10カ年戦略

・B型肝炎創薬実用化研究を追記  
・抗ウイルス療法に係る新規知見の追記、修正

H28年度

中間見直し

・インターフェロンフリー治療の登場等  
・戦略目標（研究成果目標、治療成績目標）の追記、修正  
・改正した肝炎対策基本指針を反映

## 【中間見直し】

### 戦略目標（H33年度まで）

#### 《研究成果目標》 ※研究内容自体のアウトプット（新設）

臨床研究	B型肝炎：ウイルス排除を可能とする治療薬・治療法を開発し、臨床試験・臨床応用につなげる C型肝炎：薬剤耐性ウイルスに効果のある治療薬・治療法を開発し、臨床試験・臨床応用につなげる 肝硬変：線維化の改善に資する治療薬・治療法を開発し、臨床試験・臨床応用につなげる 肝がん：肝発がん、再発を予防する治療薬・治療法や予知する検査法・診断法を開発し、臨床試験・臨床応用につなげる
基礎研究	各領域で基礎研究を推進し、臨床応用に資する成果を獲得する
疫学研究	肝炎総合対策に係る施策の企画、立案に資する基礎データを獲得する
行政研究	肝炎総合対策の推進に資する成果を獲得する

特に、B型肝炎、肝硬変の治療に係る医薬品の開発等に係る研究を促進

#### 《治療成績目標》 ※研究成果等を踏まえたアウトカム（現状を踏まえた見直し）

- (1)抗ウイルス療法による5年後のB型肝炎のHBs抗原陰性化率 約6%→約8%
- (2)C型慢性肝炎、代償性肝硬変におけるSVR率 約90%以上→約95～100%
- (3)非代償性肝硬変(Child-Pugh C)における50%生存期間 約18ヶ月→約24ヶ月
- (4)肝硬変からの肝発がん率 B型肝炎硬変 約3%→約2% C型肝炎硬変 約5～8%→約3～5%